



## 初心者からマニアまで使える

ホール、TV、ラジオなどだけではなく  
地域で落語会が開催されるなど  
身近な存在となりつつある落語を  
より楽しむための事典

# 落語 演目・用語事典

## 稲田和浩 編

A5・380頁 定価(本体8,000円+税)  
ISBN978-4-8169-2861-1

2021年1月刊行

2020.12

### 演目の内容、言葉、 タイトルを調べる

●落語の梗概、解説、登場人物、フ  
レーズを知る「演目事典」、落語に  
出てくる言葉を調べる「用語事  
典」、若旦那、船頭などのキーワ  
ードから演目を調べる「キーワー  
ードからなる事典」です。

●落語の歴史、落語を楽しむために  
はどうすればいいかなど、解説付  
き。

### 古典から新作まで対応

●古典落語だけではなく、昭和から  
平成のはじめくらいまでに作られ  
よく演じられている新作落語、東  
京で頻繁に聞くことのできる一部  
上方落語をあわせて六百三十三席  
とりあげました。

### 目次

解説  
落語の歴史  
寄席とは  
江戸と上方  
演目事典  
落語・寄席用語  
用語事典  
キーワード索引

### 【編者略歴】

稲田 和浩 いなだ・かずひろ

東京都品川区出身。日本大学芸  
術学部演劇学科卒業。一九八六  
年頃より、浪曲の台本を書き始  
め、その後、落語、講談などの  
台本、邦楽の作詞などを手掛け  
ようになる。現在、協同組合  
日本脚本家連盟演芸部副部長、  
文京学院大学外国語学部非常勤  
講師(芸術学)。演芸台本のほか、  
小説、浅草喜劇の脚本、演出も  
手掛ける。  
主な著書に「女の厄払い」(祥伝社  
/二〇一九)、「江戸落語で知る  
四季のご馳走」(平凡社/二〇一  
九)、「大人の落語評論」(彩流社  
/二〇一四)他がある。

お問い合わせは…

日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名

注文書

## 落語 演目・用語事典

定価(本体8,000円+税) ISBN978-4-8169-2861-1

冊



9784816928611

んに育てられた。嘉吉が死に、残っていた十五両の金が欲しい常吉は、悪い仲間と共謀し、おせんを騙して法華講(ぼつげこう)に参加する。「解説」平岩弓枝(作)、八代目林家正蔵(口演)の新作の人情噺。「登」おきん、おせん、旅人、太兵衛(たへえ)、常吉(つねきち)、螻の千吉(まむしのせんきち)「キ」風車、継母、身延(みのぶ)

かじかざわ【鹹沢】「長短」長

「梗概」身延参詣の新助が山の中で雪に降られる。ただり着いたあばら家には、妖艶な女がいた。「解説」三遊亭圓朝が三題噺で作った。現在でもよく演じられている人情噺。「登」お熊(おくま)、新助(しんすけ)、伝九郎(でんくろう)「フ」亭主は熊の膏葉売り。まったく、亭主が外で働いているのに、女房は家で玉子酒か。「キ」種ヶ島(たねがしま)、玉子酒、身延(みのぶ)

かじむすこ【火事息子】「長短」中

「梗概」神田三河町の質屋の息子、徳は火事が好きで、火消しになりたいと家を出て行く。数年後、近所で火事があり、番頭が蔵の目塗りをするがうまくゆかない。そこへ一人の臥煙(がえん)が屋根を飛んで現れる。「解説」六代目三遊亭圓生、八代目林家正蔵らが演じて、現代にも受け継がれている人情噺。臥煙は定火消しの人足、町火消しと違い町人には嫌われ者だった。「登」父親、徳(とく)、母親、番頭、丁稚、手代「フ」画面が使えぬ。番頭さん、折れ釘にぶらさがっています。お小遣いはいくらくらい捨てましたよか。「キ」臥煙、火事、蔵

かぜのかみおくり【風の神送り】「長短」中

「梗概」風邪が流行しているので、町内の若い者たちが「風の神送り」をやることになった。「解説」上方落語。東京では、八代目林家正蔵が演じていた。「登」伊勢屋(いせや)、伊丹屋(たまや)、尾張屋(おわりや)、風邪の神様、葉屋、町内の若い

「演目事典」より

「用語事典」より

◇かいらうどうけつ(つ)のちぎり【借老同穴の契り】  
 (慣用句)二緒のお墓に入る約束。(演)「たらちね」

◇かえりぐるま【帰り車】  
 (用語)家に帰る途中の車。方向が同じなら割引料金で乗せてくれた。(演)「代り目」

◇がえん【臥煙】  
 (用語)定火消し配下の火消し人足。体中べた彫りの刺青で、頭は奴銀杏、白足袋に切りたての六尺を締めさらしの腹巻に屋敷の法被。町火消しは刺し子を着るが、臥煙は頭巾も被らず屋敷の法被、杖で消火に当たるホントの命知らずの男たち。ただし、任務は江戸城を火災から守ることで、町屋の火災は放置か、むしろ破壊消火で類焼防止のため容赦なく壊したので、町人からは嫌われた。臥煙になるには厳しい条件があり、「江戸っ子」「背が高い」「三男ぶりがいい」、四色白、五腕力、この五つの条件が揃わないと採用されない。肝心の力が五番目で、カッコよきのほうが優先する。(演)「火事息子」

◇かえんだい【火焔太鼓】  
 (文学・演劇・音曲)雅楽に用いる楽器。太鼓のまわりを火焔の装飾で飾つてあるもの。(演)「火焔太鼓」

◇かおしようろちしん【花和尚魯智深】  
 (人名)「水滸伝」の登場人物。豪快無敵の破戒僧。重さ六十四斤の禅杖が武器。(演)「弥次郎」

◇かおのうらおもてがわからない【顔の裏表がわからない】  
 (慣用句)不細工。(演)「妾馬」

「キーワード索引」より

蚊	→二十四孝	96	駕籠屋	→煙	
会社	→妻の酒	89	傘	→ちき	
怪談	→年枝の怪談	99	火事	→【別】雨のち	
怪談噺	→お化け長屋	52		→心中時雨傘	
	→【別】借家怪談(上方)	52		→うそつき弥次郎	115
	→二つ面	105		→お七	50
戒名	→万金丹	111		→火事息子	55
買い物	→壺算	89		→首提灯	62
替え玉	→三国志	72		→首ったけ	62
臥煙	→火事息子	55		→さんま火事	73
案山子	→二人旅	97		→心中時雨傘	79
鏡	→松山鏡	111		→富久	93
賭け	→そば清	82		→ねずみ穴	99
	→試し酒	86		→反魂香	102
	→四人癖	120		→【別】火の用心	50
駆け落ち	→髪結新三	57		→弥次郎	115
	→【別】恋娘昔八丈	57	貸し本屋	→紙入れ	57
掛け軸	→一目上がり	103	鍛冶屋	→干物箱	104
掛取り	→掛取万歳	55	風邪	→紀州	59
駕籠	→紀州	59		→うどん屋	47
	→くも駕籠	63		→【別】風邪うどん(上方)	47
	→蔵前駕籠	63	家族	→風の神送り	55
	→【別】住吉駕籠(上方)	63	片想い	→長い夜	94
				→磯の鮑	43
				→【別】わさび茶屋(上方)	42